

市町村名		宮古島市					
平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	宮古島市防災マップ製作事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 2 - (4) - イ	
担当部課名	総務部 防災危機管理班	事業実施（予定）年度	平成24年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	災害時における市民の安全を確保するため、防災マップを作成し、災害時における避難ルートや避難場所等の周知を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	24年度（繰越）	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,190	-			
		(b) 予算現額	7,245	-			
		(c) 増減額 (b-a)	945	-			
		(d) 繰越額	-	7,245			
		A. 計 (b+d)	7,245	7,245			
	B. 執行済額		0	7,245			
	うち交付金充当額			5,796			
	次年度繰越額		7,245				
	執行率（％）(B/A)		0.0%	100.0%			
予算の状況の説明		沖縄県から公表されました、「沖縄県津波被害想定調査（平成25年3月）の津波浸水予測図」の公表が当初予定の時期より遅れたため、津波浸水図に影響があり製作のスケジュールに不測の日数を要したことから繰越となったが、計画の事業内容は実施済み。					
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	避難ルート及び避難場所の周知・防災マップ配布世帯数	目標	(25,000世帯)	()	()	()	
		実績	25,000世帯				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	防災マップの作成 宮古島市内の各世帯(25,000部)の配布、防災講演会の開催した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	避難ルート及び避難場所の周知・防災マップ配布世帯数	目標	()	(25,000世帯)	()	()	(27000)
		実績		25,000世帯			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	災害時における市民の安全を確保するため、防災マップに避難場所や津波浸水予測図、危険箇所等の表示、防災の手引きを記載し全世帯に配布することにより周知を図った。					

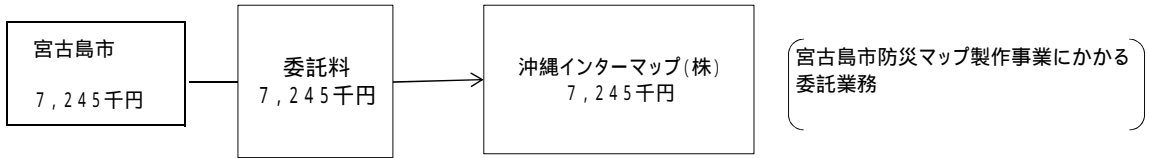
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>沖縄県から公表されました、「沖縄県津波被害想定調査(平成25年3月)の津波浸水予測図」の公表が、当初予定の時期より遅れたため制作のスケジュールや市民へ配布する前に講演会を実施したが時間を要した。</p>	<p>防災マップを作成し各世帯に配布することにより市民へ津波浸水想定地図や避難所の周知を図る事が出来たが、各地域において避難所までのルート の検証が必要となる。 今後は、各地域においてワークショップを開催し、避難路の確認を行い防災マップに記入し、マップの有効利用を図る。</p>

今後の取り組み方針

防災マップの更新は定期的に必要なので、市民や観光客等の島外からの方達に表示や内容を工夫し、取り組んでいきたい。
また、市民への津波・地震訓練等を通して防災マップを使用しながら防災意識の向上や災害時の安全を確保していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,245	7,245	5,796	1,449	



資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札方式により選定しており妥当であったと考えている。 予定していた事業は全て実施済みであり予算規模は適切であった。 費目・用途については事業の目的達成の観点から必要かつ適正なものであった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1 -	与那覇地区防災センター整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 2 - (4) - イ
担当部課名	総務部 防災危機管理班	事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				災害に強い県土づくりと防災体制の強化
				- 10 - (2)

事業内容	海沿いに面した海拔の低い与那覇地区に防災センターを整備し、地域住民の災害時における避難場所を確保する。			
------	---	--	--	--

実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()
------	------	----	----	----	---------

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	15,000	-			
	(b)予算現額	13,995	-			
	(c)増減額(b-a)	1,005	-			
	(d)繰越額	-	13,994			
	A.計(b+d)	13,995	13,994			
	B.執行済額	0	13,994			
	うち交付金充当額		11,195			
	次年度繰越額	13,994				
	執行率(%) (B/A)	0.0%	100.0%			
予算の状況の説明	沖縄県から公表されました、「沖縄県津波被害想定調査(平成25年3月)の津波浸水予測図」の公表が当初予定の時期より遅れたため、建物の高さや構造に影響がありスケジュールに不測の日数を要したことから繰越となった。 ・当初計画した活動目標及び成果目標を達成し、事業内容を実施できた。					

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		防災センターの整備着手(与那覇地区)	目標	(実施設計)	()	()
	実績	実施設計				
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	海沿いに面した海拔の低い与那覇地区住民の、災害時における避難場所としての防災センター整備に向け、平成24年度は設計委託業務行った。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
		目標	()	(実施設計)	()	()	()
		実績		実施設計			
		[参考指標]	目標	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	防災センターを建設するため、平成25年度は、建築設計委託業務を完了した。今後の展開として平成26年度内に施設の建設及び供用開始を目標としている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	防災センター建築に関しての地元住民の理解は得たが、土地利用に対する使用料の負担について同意を得るのに時間を要した。 沖縄県から公表されました、「沖縄県津波被害想定調査(平成25年3月)の津波浸水予測図」の公表が当初予定の時期より遅れたため製作のスケジュールに不測の日数を要した。	計画の早い段階から、地元住民の理解を得やすいよう、情報提供しながら推進していくことが必要である。

今後の取り組み方針

実施設計をもとに、地域住民との調整を図りながら与那覇地区へ防災センターの建築を進めていく。
 その他海抜の低い地域においても地域住民の理解が得られるよう情報提供を行い、順次津波避難施設の整備を進めていく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
13,994	13,994	11,195	2,799	



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札方式により選定しており妥当であったと考えている。 予算規模と、入札額(最終予算)に大きな乖離はなく適正であった。 費目・使途については事業の目的達成の観点から必要かつ適正なものであった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		宮古島市					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	宮古島市標高分類マップ製作事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	総務部 防災危機管理班	事業実施(予定)年度	平成24年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	災害時における市民の安全を確保するため、標高分類マップを作成し、推定される津波到達区域や避難ルート等を明らかにするとともに、市民への周知を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度		24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
		(a)当初予算額	7,035	-			
		(b)予算現額	6,825	-			
		(c)増減額(b-a)	210	-			
		(d)繰越額	-	6,825			
		A.計(b+d)	6,825	6,825			
		B.執行済額	0	6,825			
		うち交付金充当額		5,460			
		次年度繰越額	6,825				
		執行率(%) (B/A)	0.0%	100.0%			
予算の状況の説明		沖縄県から公表されました、「沖縄県津波被害想定調査(平成25年3月)の津波浸水予測図」の公表が当初予定の時期より遅れたため、津波浸水図に影響があり製作のスケジュールに不測の日数を要したことから繰越となったが、計画の事業内容は実施済み。 事業実施前に設置箇所の見直しを行い、2地区の公共施設が含まれていなかった為、設置数を改め、事業を執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	標高分類マップの掲示:市内公共施設・観光関連施設		目標 (35箇所)	()	()	()	
			実績 37箇所				
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	公共施設・観光関連施設37箇所へ、推定される津波浸水区域の表示並びに近隣の避難所を表示し市民及び観光客への周知を図る為設置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	標高分類マップの掲示:市内公共施設・観光関連施設		目標 (0)	(35箇所)	()	()	()
			実績	37箇所			
	[参考指標]		目標 ()	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	市民や観光客の出入りが多い、市役所等の公共施設、空港等の観光関連施設へ標高分類マップを掲示した。目標35箇所に対し37箇所掲示しており、目標を達成している。 標高分類マップを掲示することで、市民や観光客の方々が、居住している場所や現在地等が推定される津波浸水区域であるか、また近隣の避難所はどこなのかを確認することができるようになった。これにより、市民や観光客の方々の防災・減災に関する意識を醸成することができ、被災時のスムーズな避難等が期待できる。					

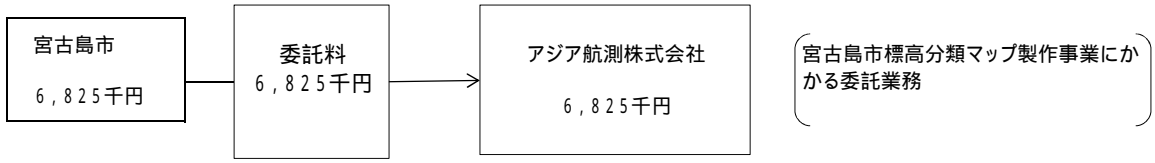
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	沖縄県から公表された、「沖縄県津波被害想定調査(平成25年3月)の津波浸水予測図」の公表が当初予定の時期より遅れたため製作のスケジュールに不測の日数を要した。	業務は、目的を達成したため、改善の余地はないものとする。

今後の取り組み方針

市民への津波・地震訓練等を通して標高分類マップを紹介しながら防災意識の向上や災害時の安全を確保していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,825	6,825	5,460	1,365	



資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札方式により選定しており妥当であったと考えている。 予定していた事業は全て実施済みであり予算規模は適切であった。 費目・用途については事業の目的達成の観点から必要かつ適正なものであった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市							
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2 -	トウリバー地区マリーナ整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	建設部 港湾課	事業実施(予定)年度	平成24年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 - 1 - (1)		
事業内容	観光交流拠点としての機能拡充を図り、多様な交流を促進するため、平良港トウリバー地区のマリーナを整備する。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	41,187	-				
		(b)予算現額	41,187	-				
		(c)増減額(b-a)	0	-				
		(d)繰越額	-	37,722				
	A.計(b+d)		41,187	37,722				
	B.執行済額		3,465	37,716				
	うち交付金充当額		2,772	30,172				
	次年度繰越額		37,722	0				
	執行率(%) (B/A)		8.4%	100.0%				
予算の状況の説明		施設の実施設設計にあたり、マリーナ利用者などの関係者から複数の意見・要望があり、その調整に不足の日数を要したため工事請負費37,722千円を次年度に繰越し、マリーナ整備を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	マリーナ施設の機能強化 1)道路整備:改良工・舗装工100m 2)外灯施設整備:4基 3)水道施設整備:280m 4)その他:巻揚機一式	目標	道路改良L=100m、外灯施設4基、水道施設L=280m、巻揚機一式	()	()	()	()	
		実績	道路改良L=103m、外灯施設1基、水道施設L=505m、電気設備一式					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	平成24年度(現年)で施設測量設計委託業務を完了し、平成24年度(繰越)で整備工事を実施し、マリーナ施設の機能強化が図られた。 マリーナ整備を実施する上で、利用者の意見を聴取した結果、電気設備一式を早急に整備する事となった。このため平成24年度事業においては、巻揚機一式及び外灯施設3基の整備を実施することが出来なかったが、マリーナ施設の利便性向上及び防犯対策・作業安全性の機能強化を図るためにも必要不可欠な施設であるので、引き続き本事業メニューを活用した整備検討を行うこととなった。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(30年度)	
	マリーナ施設の機能強化 1)道路整備:改良工・舗装工100m 2)外灯施設整備:4基 3)水道施設整備:280m 4)その他:巻揚機一式	目標	()	道路改良L=100m、外灯施設4基、水道施設	()	()	()	()
		実績		道路改良L=103m、外灯施設1基、水道施設L=505m、電気設備一式				
	【参考指標】 平良港トウリバー地区マリーナ(船舶係留)契約者数		目標	(14人)	(14人)	()	()	(37人)
			実績		25人			
	進捗状況説明	道路改良整備:車道及び歩道整備を行ったことにより、車両と歩行者の通行分離が図られ、安全・円滑・快適に通行可能となった。 外灯施設整備:浮桟橋前に外灯1基設置し、船舶防犯上や夜間における航行準備等の安全性が図られた。 水道施設整備:施設整備前は各自で船舶給水を行っていたが、給水設備整備されたことにより給水運搬作業等の労力削減に繋がった。 電気設備:施設整備前は各自で船舶電源確保やメンテを行っていたが、給電設備整備されたことにより円滑に作業が行えるようになった。 事業実施によってマリーナ契約者の増加が図られる見込み。						

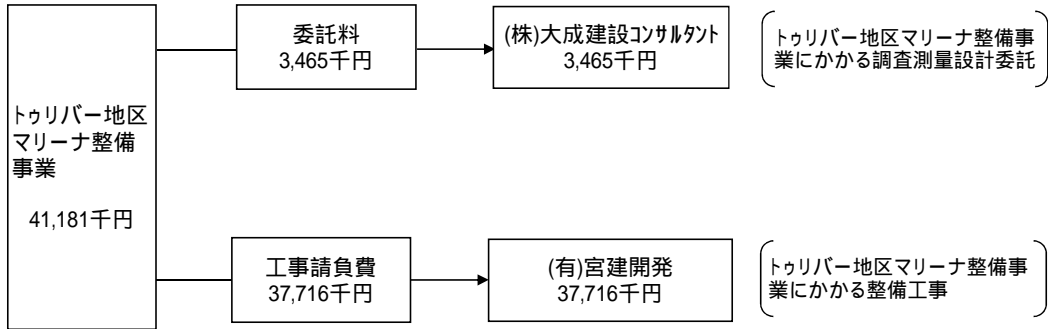
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ マリーナ契約者増加に伴い、本事業で整備した電気設備(船舶給電施設)6基では、同時使用した場合に不足が生じる懸念がある。 ・ 活動目標の整備箇所が一部未達成(外灯施設3基・巻揚機一式)となり、マリーナ契約者との調整不足や、適切な時期に事業費増額要望が対応できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度整備では、電気設備(船舶給電施設)6基はマリーナ契約者共同利用とし、増設され次第個別管理方式での改善を行う。 ・ 今後は、左記事項を踏まえてマリーナ契約者と再度十分な調整及び適正な事業費計上を行い、マリーナ施設の機能強化を図る。

今後の取り組み方針

多様な交流をさらに促進するため、今後は、本事業で整備した外灯施設等を適正に維持管理していくほか、巻揚機一式及び外灯施設3基については整備に向けた検討を進める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
41,181	41,181	32,944	8,237	0



資金の流 れ、費 目 の 検 査 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	業者選定に当たっては市条例を遵守し、指名競争入札に付し落札者決定している。 予算規模に関しては、マリーナ契約者との整備要望も踏まえて施設整備を実施した。 費目・用途については支出等に関する書類により確認、適正であった。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

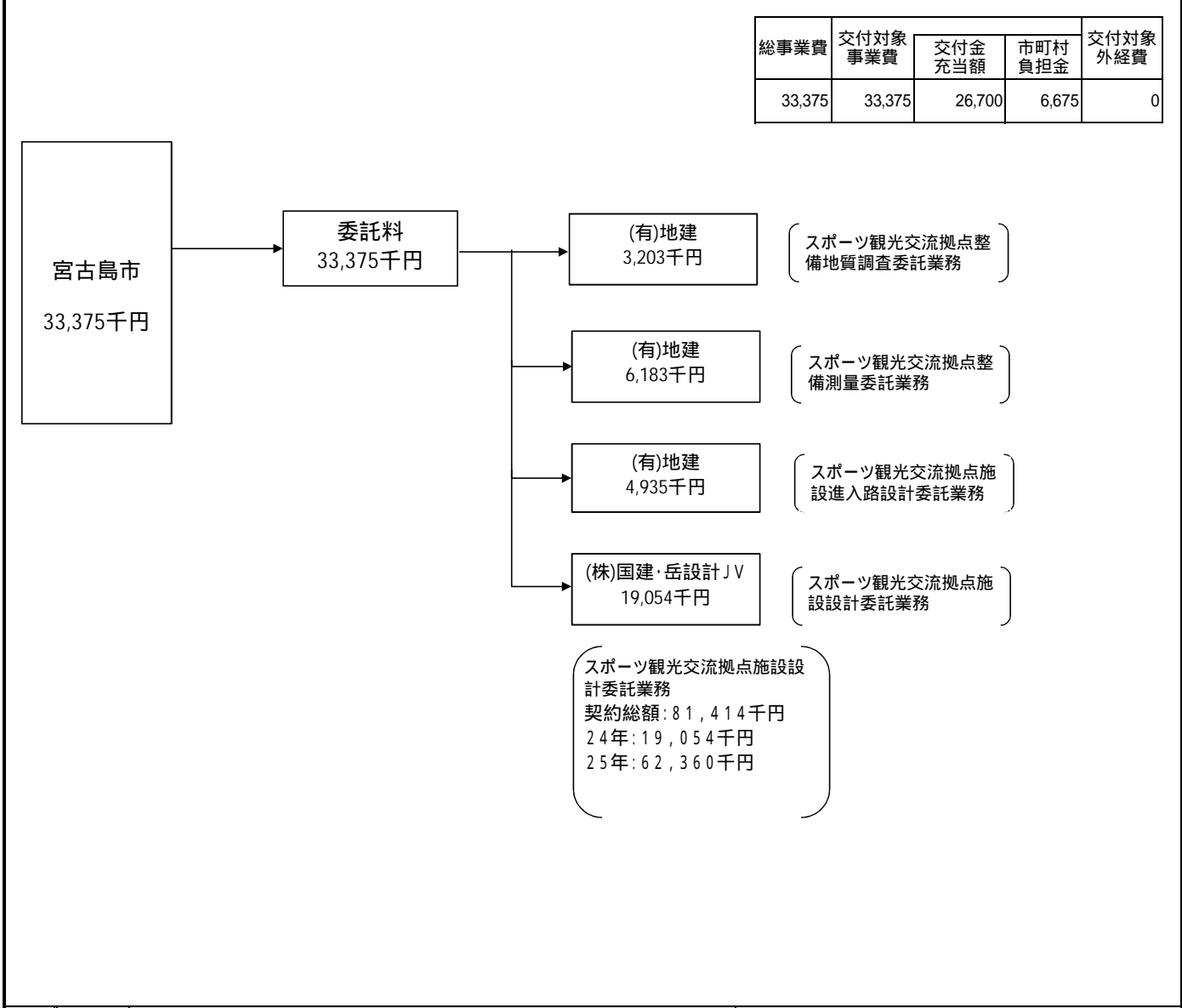
市町村名		宮古島市					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	スポーツ観光交流拠点整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部課名	建設部都市計画課	事業実施(予定)年度	平成24～平成25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 - 1 - (1)	
事業内容	年間を通して、軽スポーツが楽しめ、地域の伝統文化に親しむことができる全天候型のスポーツ・伝統文化交流拠点施設を整備する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	33,375	-			
		(b)予算現額	33,375	-			
		(c)増減額(b-a)	0	-			
		(d)繰越額	-	33,375			
		A.計(b+d)	33,375	33,375			
	B.執行済額		0	33,375			
	うち交付金充当額		0	26,700			
	次年度繰越額		33,375	0			
	執行率(%) (B/A)		0.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初の予定では設計委託業務の発注を予定していたが、当初建設予定地より敷地位置が変更となり、それに伴い土質調査や敷地造成設計の委託業務が新たに必要となったため、24年度事業完了が困難となり事業期間を延長し実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
	観光交流拠点施設の整備に係る調査設計業務		24年度	25年度	26年度	27年度	
		目標	(調査・設計委託)	()	()	()	
		実績	調査・設計委託				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	建設予定箇所の地質調査、用地測量、進入路設計等の業務を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	観光交流拠点施設の整備に係る調査設計業務	目標	(基本計画策定)	(調査・設計業務)	()	()	()
		実績		調査・設計業務			
	[参考指標] 調査・設計委託業務		目標	(-)	(4件)	()	()
			実績				
	進捗状況説明	建設予定地の土質調査、用地測量を行った上で、進入路設計を完了した。さらに、H24年度分の予算一部とH25年度分予算で施設の実施設計を行い、併せてH25年度分予算で敷地造成工事の設計を実施した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	施設建設予定地は宮古空港に近接していることから、施設の形状や外部使用資材について関係機関との調整を要する。 周辺に林地が多く見られることから、周辺環境との景観調和に配慮する必要性がある。 エコアイランド宣言に即した自然エネルギーの活用を積極的に取り入れるよう計画する。	本市の空港課を通して県空港課へ資料及び図面を提出し、丁寧に協議を行っていく。 周辺地域の環境・景観との調和について、施設周辺及び進入路へ宮古島を象徴するような亜熱帯植物の植樹計画を更に進める。 自然エネルギーの活用のみならず、省エネに関する検討も更に進めていく。

今後の取り組み方針

・現在計画している内容を実施に向け進めていく上で、各関係機関との調整をH26年度に集中して進めておく。
 ・施設整備後の新たなイベント誘致等、関係部署と連携して準備を進めておく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
			支出先の選定方法は妥当か。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・国内類似施設を参照した上整備計画は行ったが、これらの類似施設の建設時と比較すると消費税の引き上げ、建設資材の高騰等特殊な要因があるが、事業費の積算は適正であるとする。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については事業実施に際し必要なのか等、支出に関する書類により確認を行い適正であった。
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

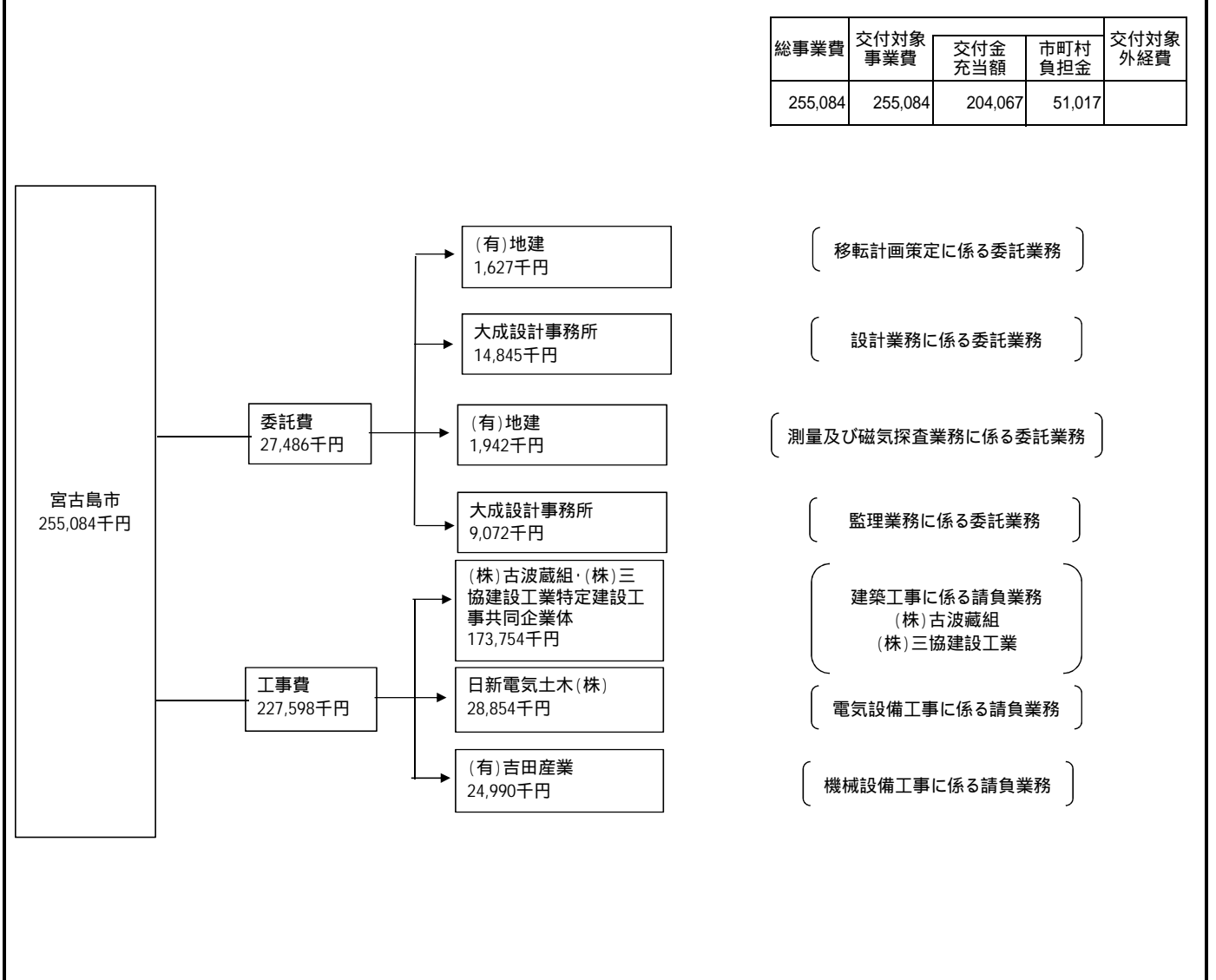
市町村名		宮古島市					
平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-		宮古島市伝統工芸館整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-イ	
	担当部課名	観光商工局 商工物産交流課		事業実施（予定）年度		平成24年度～平成25年度	文化コンテンツ産業の振興
事業内容					沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)	
	国の無形文化財に指定されている「宮古上布」の歴史が学べ、機（ハタ）を使っの織物体験ができる伝統工芸館を新たに整備する。						
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他（ ）	
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	24年度（繰越）	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	220,000				
		(b) 予算現額	269,153				
		(c) 増減額 (b-a)	49,153	0			
		(d) 繰越額	-	267,525			
		A. 計 (b+d)	269,153	267,525			
	B. 執行済額		1,627	253,457			
	うち交付金充当額		1,302	202,766			
	次年度繰越額		267,526	0			
	執行率（％）(B/A)		0.6%	94.7%			
予算の状況の説明		関係団体からの要望等の調整で建設用地の選定や建物の配置、面積等の決定に不測の日数を要した為繰越事業となった。また、不用額に関しては、指名競争入札による入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施。活動目標、成果目標を鑑みて適正であった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	伝統工芸館の整備着手	目標	（ 伝統工芸館の整備着手：1,080.45㎡ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実績	伝統工芸館の整備1,084.04㎡				
		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
実績							
達成状況説明	事業を実施して行く中で、詳細の設計の結果、面積が1,084.04㎡となった。国の無形文化財に指定されている「宮古上布」の歴史が学べ、機（ハタ）を使っの織物体験ができる伝統工芸館として、整備を実施した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	伝統工芸館の整備着手	目標	（ ）	（ 伝統工芸館の整備着手：1,080.45㎡ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実績		伝統工芸館の整備：1,084.04㎡			
	[参考指標]		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
			実績				
進捗状況説明	新たに伝統工芸館を整備した事により商品の展示スペース、駐車場の確保が可能となり、観光誘客施設としての利便性が向上した。今後は、国の無形文化財に指定されている「宮古上布」の歴史学習や織物体験等宮古上布の魅力発信し、担い手を育成する拠点としての活用が期待される。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	事業を実施していく中で特に問題は無いが、今後は施設の宣伝方法を検討する必要がある。	市のホームページ及び島外、県外向けにPR活動を実施し、宮古上布の売上げ増、来館者数の増加に繋げる。

今後の取り組み方針

平成26年4月1日より指定管理者制度を導入、施設の供用開始を行っており、指定管理者と協力して施設の周知活動を積極的に行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 用途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札を実施し、受託者を選定しており、妥当であったと考える。 活動目標・成果目標を達成しており、予算規模は適正であった。 費用・用途については、完了検査にて確認、適正であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2 -	観光施設改修事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (2) - ウ
担当部課名	観光商工局 観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	- 1 - (1)

事業内容	観光拠点施設である「ドイツ文化村」の改修工事を実施する。			
------	------------------------------	--	--	--

実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()
------	------	----	----	----	---------

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	46,000				
	(b)予算現額	46,000				
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	-	44,073			
	A.計(b+d)	46,000	44,073			
	B.執行済額	1,927	41,132			
	うち交付金充当額	1,541	32,906			
	次年度繰越額	44,073	0			
	執行率(%) (B/A)	4.2%	93.3%			
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の設計にあたり、観光関係者から複数の意見・要望があり、その調整に不測の日数を要した為、事業期間を延長し繰越事業として実施した。 ・当初計画していた事業内容は実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であると考え、不用額に関しては、4つの改修工事の入札残。 					

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		観光施設(ドイツ文化村)の機能強化 駐車場改修 遊具改修 キンダーハウス改修 屋根付遊歩道改修	目標	(施設の機能強化)	()	()
	実績	施設の機能強化				
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	目標としていた4点の機能強化に加え、博愛記念館漏水補修及び屋根付き遊歩道の整備を行った。目標は達成しており機能強化が図られた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
		観光施設(ドイツ文化村)の機能強化 駐車場改修 遊具改修 キンダーハウス改修 屋根付遊歩道改修	目標	(施設の機能強化)	()	()	()
			実績	施設の機能強化			
		【参考指標】 入域観光客数	目標	(332,473)	(400,000)	()	()
	実績		413,654				

進捗状況説明	施設の機能強化を図ることにより、観光拠点である(ドイツ文化村)の快適な施設利用が出来、観光客の誘致に繋がると考える。
--------	--

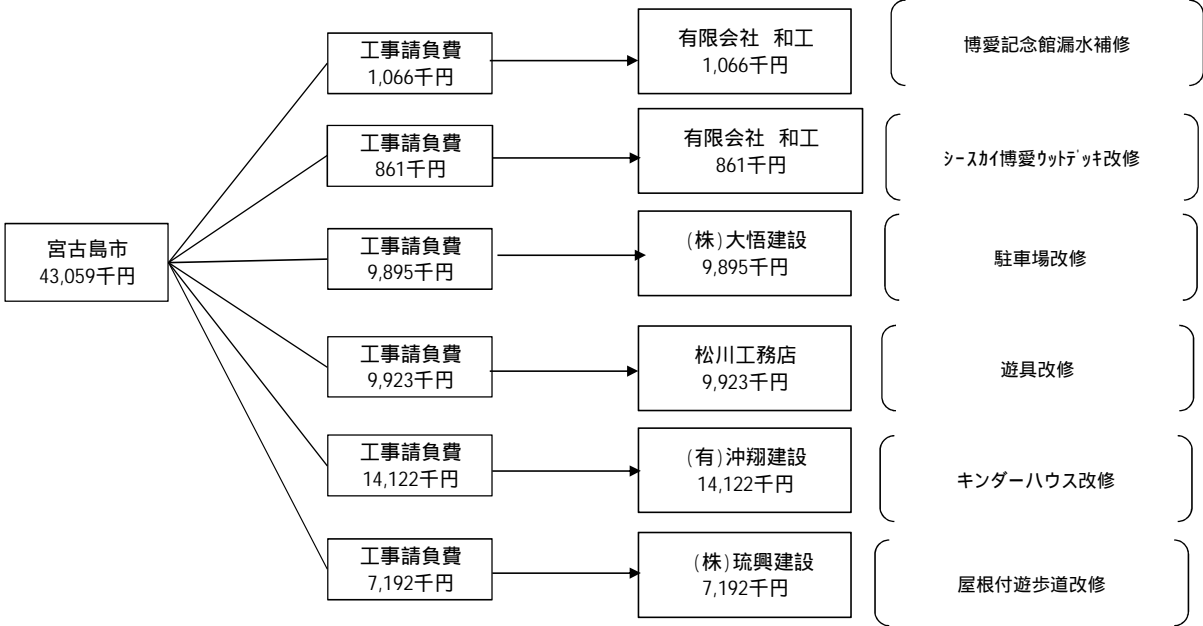
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	ドイツ文化村施設内には老朽化している施設がまだあり、魅力ある観光地としていく為には、更に機能強化を図っていく必要があると考える。	施設内に機能強化を図って行く必要のある箇所を抽出し、順次事業を推進していく。

今後の取り組み方針

観光拠点施設(うへのドイツ文化村)の施設改修を行い、観光客、地元住民の安全性を確保するとともに、快適施設使用ができることによって、観光地としての宮古島のイメージアップを図り観光客の誘致に取り組んで行くことが重要である。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
43,059	43,059	34,447	8,612	



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	指名競争入札によって受託先を選定しているので妥当である。 予算規模についても事業計画書等の審査した結果、事業に見合った適正な規模となっている。 一件書類を確認した結果適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2 - 伊良部地区観光地環境整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部課名	伊良部支所 地域づくり課	事業実施(予定)年度	24年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容	観光地としての多くの観光客が訪れている伊良部島・下地島間の入江周辺にトイレ施設を整備をする。				
------	--	--	--	--	--

実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()
------	------	----	----	----	---------

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	25,000				
	(b)予算現額	21,809				
	(c)増減額(b-a)	3,191				
	(d)繰越額	-	6,678			
	A.計(b+d)	21,809	6,678			
	B.執行済額	15,130	6,678			
	うち交付金充当額	12,104	5,338			
	次年度繰越額	6,678				
	執行率(%) (B/A)	69.4%	100.0%			
予算の状況の説明	<p>・現地調査により、基礎部分が弱いことがわかり、工法の変更が必要となり、その調整に不測の日数を要した為、事業期間を延長し繰越事業として実施した。 ・平成25年5月には予定していた事業を全て完了した。</p>					

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		観光地の環境整備 施設整備:公衆トイレ(46.4㎡)	目標 (施設整備)	()	()	()
	実績	施設整備				
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	<p>目標としていた観光地環境整備としてバリアフリー対応の公衆トイレを整備しことにより観光地としての受入体制が整い観光客の利便性が向上した。</p>					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
		目標	()	(施設整備)	()	()	()
		実績		施設整備			
		[参考指標]	目標	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	<p>目標としていた観光地環境整備としてバリアフリー対応の公衆トイレを整備することができた。平成27年1月に伊良部大橋が開通する予定であり、伊良部島・下地島への交通アクセスが向上する為、観光客数が大幅に増加すると思われる。本事業により観光客の受入体制が向上した。</p>						

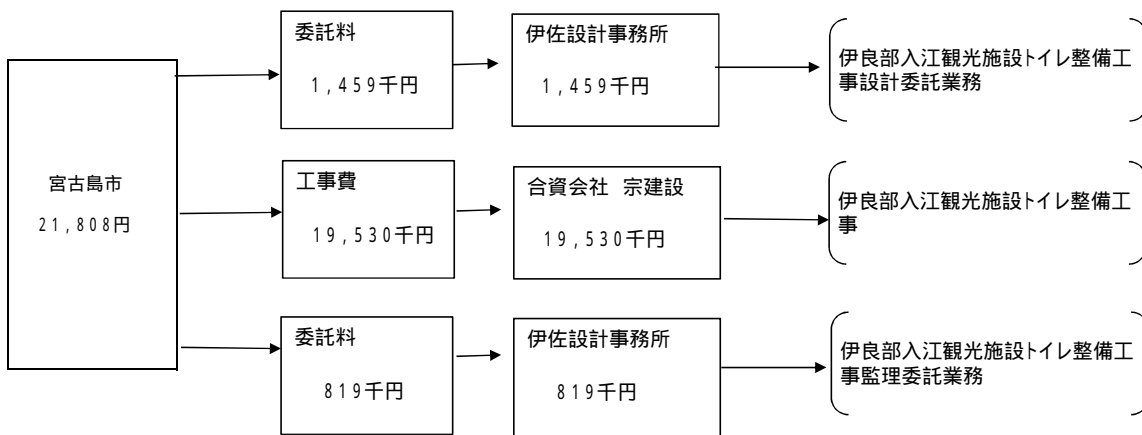
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 今後も伊良部島・下地島を魅力的な観光地として推進していく為、更に観光客受入体制の強化を図る必要がある。 今後は整備した施設を適正に監視し、利用者に喜ばれる施設として維持する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、受入体制を強化していく為に、どのような取り組みが必要であるかの検証を進め、順次事業を実施していく。 整備した施設を清潔に維持管理する。

今後の取り組み方針

平成27年1月に伊良部大橋が開通する予定であり、伊良部島・下地島への交通アクセスが向上する為、観光客数が大幅に増加すると思われる。魅力ある観光地としていくため、今後も実施していくべき事業の検証を進め、更に整備した観光施設の維持管理を徹底して観光客によるこぼれる施策をおこない観光産業の振興拡大を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
21,808	21,808	17,442	4,366	



資金の流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定は、宮古島市建設工事等入札事務処理要綱により、指名競争入札を径て選定しており妥当である。予算規模は、積算基準を適用しており適正である。費目は、委託料、工事費のみであり必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		宮古島市					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-	与那覇湾環境総合整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ	
担当部課名	生活環境部環境衛生課		事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	陸域・水辺環境の保全 -1-(1)
事業内容	ラムサール条約に登録された「与那覇湾」の利活用についての総合的な整備計画を策定し、貴重な自然環境の有効活用を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	1,000				
		(b)予算現額	1,000				
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	1,000			
		A.計(b+d)	1,000	1,000			
	B.執行済額		0	966			
	うち交付金充当額			772			
	次年度繰越額		1,000	0			
	執行率(%) (B/A)		0.0%	96.6%			
予算の状況の説明		事業の実施にあたっては、宮古野鳥の会・国指定鳥獣保護区の管理員等より与那覇湾に流れる河川水等の影響についての調査を必要とする旨の助言を受けており、その具体的な調査方法や調査期間等の検討に時間を要した為、繰越事業となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	与那覇湾利活用調査の実施	目標	(調査の実施)	()	()	()	
		実績	調査の実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	繰り越し後に早期に調査項目の調査に入り、調査の実施を行い事業を完了することが出来た。排水路の土砂堆積状況や集落排水の設置状況等を把握でき、整備するゾーンや利活用ゾーン、学習ゾーン等のゾーン分けが図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	与那覇湾利活用調査の実施	目標	()	調査の実施	()	()	野鳥観察小屋 学習観察館工事
		実績		調査の実施			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	繰越後に早期に調査項目の調査に入り、調査の実施を行い事業を完了することが出来た。今後は、与那覇湾周辺水辺環境改良工事及び与那覇湾の底質改善に向けた作湾工事(局部的に導水路を掘り潮の流れをスムーズにし環境改善に繋げる工事)を実施し、野鳥観察小屋や学習観察館の整備を目標とする。					

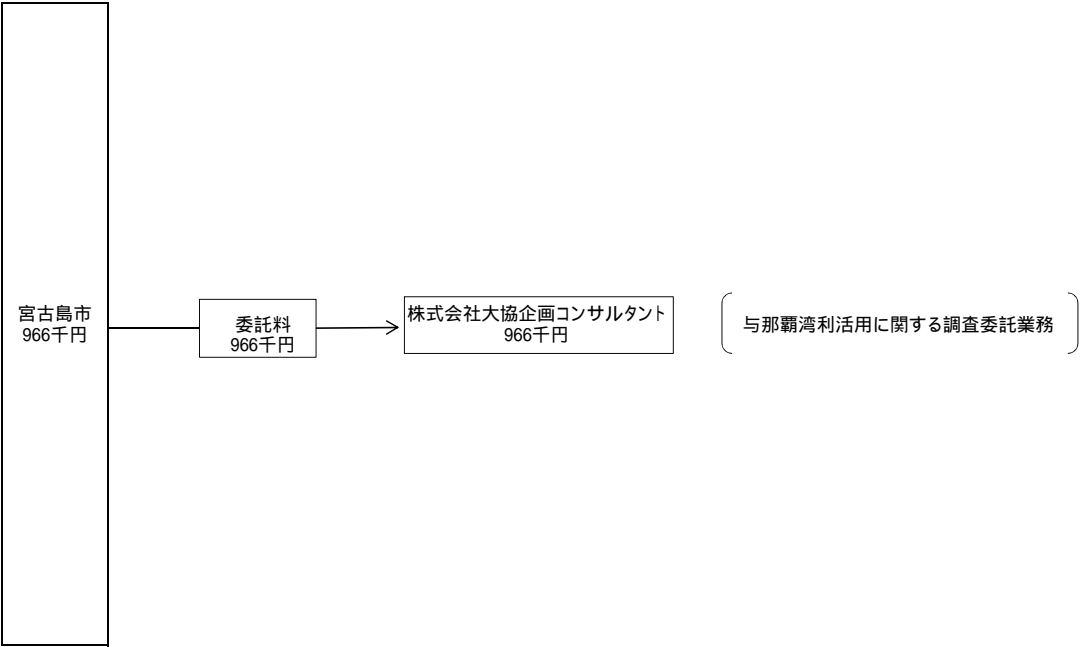
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 与那覇湾の面積が704ヘクタールと広大であり収集する各資料や調査のデータが膨大なものとなる為、現況把握等における重要度を整理するほか、資料収集及調査の実施時期に留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集する資料や調査項目について十分に検討し、現況調査等に必要な最低限の調査に集中し、煩雑にならないよう注意する。 実施予定である調査の中には潮の干満等の影響により季節や時間帯によって調査ができない項目もあるので、調査内容を振り分けて実施出来るように事前に条件等を把握する。 国や県・宮古島市や公的機関の公表資料を収集するが、時間を要するものについては早期に着手する必要がある。

今後の取り組み方針

平成24年度事業において実施出来なかった資料収集や、調査時期等の検討を十分に行った上で調査を実施する。
観光客や地元の方々等多くの方が与那覇湾の自然に触れあえるよう、ガイドの育成や小学生等による環境学習を推進し、野鳥観察小屋や学習観察館等の親水施設を整備し、自然環境の有効活用を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
966	966	772	194	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は契約検査課による指名競争入札で選定されており妥当と考えている。 予定していた調査を完了しており、予算規模は適正であった。 調査に係る委託料のみであり、費目・使途は事業目的に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2 -	宮古島市スポーツマネジメントプラン策定事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ
担当部課名	生涯学習部 市民スポーツ課	事業実施(予定)年度	平成24年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				「スポーツアイランド沖縄」の形成
				-1-(1)

事業内容
 スポーツを柱とした観光振興を推進するため、スポーツコンベンションの推進、スポーツ関連ビジネスの創出、スポーツ産業に係る人材育成、既存ストック施設の有効活用及び整備計画について、調査・分析を行い、取り組むべき最適な施策とその手法を明らかにした総合的な整備計画を策定する。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	5,940			
		(b)予算現額	5,940			
		(c)増減額(b-a)	0	0		
		(d)繰越額	-	5,940		
		A.計(b+d)	5,940	5,940		
	B.執行済額			5,775		
	うち交付金充当額			4,620		
	次年度繰越額		5,940	0		
	執行率(%) (B/A)		0.0%	97.2%		
	予算の状況の説明		計画策定にあたり、有識者及びスポーツ団体から仕様(調査の内容と範囲・項目等)に関する要望があり、その調整に不測の日数を要した為、繰越事業となった。 不要額が165千円あるが、委託料の入札残である。			

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		スポーツマネジメントプラン策定	目標 (プラン策定)	()	()	()
	実績	プラン策定				
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	島内外の有識者(18名)で構成される「宮古島市スポーツマネジメントプラン検討委員会」を設置し、3回の検討委員会を開催し、プランを策定した。 プラン策定にあたっては、委員会資料として、20歳以上の市民2,000名(無作為抽出)を対象にスポーツに対してどのように認識や期待を持っているか等を把握することを目的とした「市民アンケート調査」や市内の公共スポーツ施設の利用者を対象に利用したスポーツ施設の満足度やスポーツ施設に対する期待等を把握することを目的とした「施設利用者アンケート調査」、またスポーツ関連団体を対象に団体員数や年間の活動状況等を把握することを目的とした「スポーツ団体アンケート調査」を行った。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		スポーツマネジメントプラン策定	目標 ()	(プラン策定)	()	()
		実績		プラン策定		
	[参考指標]	目標 ()	()	()	()	()
		実績				
進捗状況説明	本市のスポーツ振興の課題であるスポーツ施設の有効活用と人材の育成、活用に関する取り組みをまとめ、今後、本プランをもとにアスリートや指導者・トレーナー等の誘致、またスポーツコンベンションの開催を充実させるべく施設の整備を行う。					

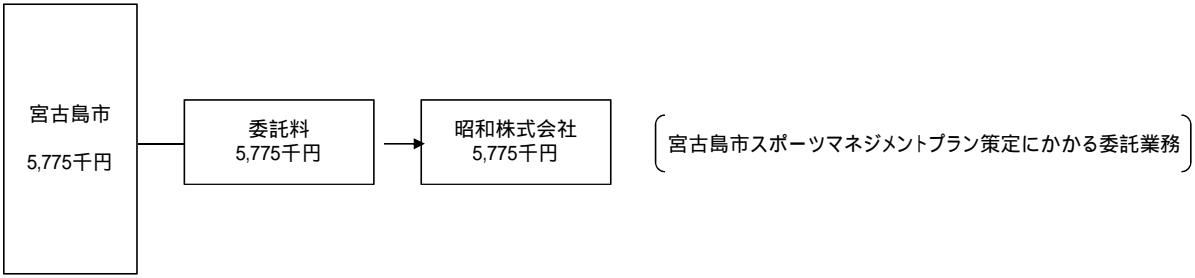
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・地区特性を考慮した特色ある施設整備の必要性。 ・維持管理の統一化と適切な管理体制の構築の必要性。 ・スポーツ活動を支援する環境づくりの必要性。 ・将来の維持管理コスト増加への対応の必要性。 ・市外からの利用者の拡大の必要性。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択と集中による施設の整備と活用。 ・効率的な施設の維持管理。 ・生涯スポーツ及び競技スポーツを総合的に支援する人材の活用と育成。 ・スポーツイベント等を活性化する体制の強化。 ・施設の維持管理やサービスを高める組織・体制づくり。

今後の取り組み方針

- (1) 特定の競技に特化した拠点施設の形成
 - ・各地区において特化する競技と拠点施設の形成
- (2) スポーツ振興のためのエリアの設定
 - ・「スポーツコンベンションエリア」の地区設定
 - ・「アスリート誘致エリア」の地区設定

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,775	5,775	4,620	1,155	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は指名型プロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考えている。 プラン策定にあたり検討委員会を3回開催したが、アンケート調査などの資料収集や会議資料作成、検討委員会運営など予算規模は適正であったと考える。 プラン策定の委託業務のみであり、適正であったと考える。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

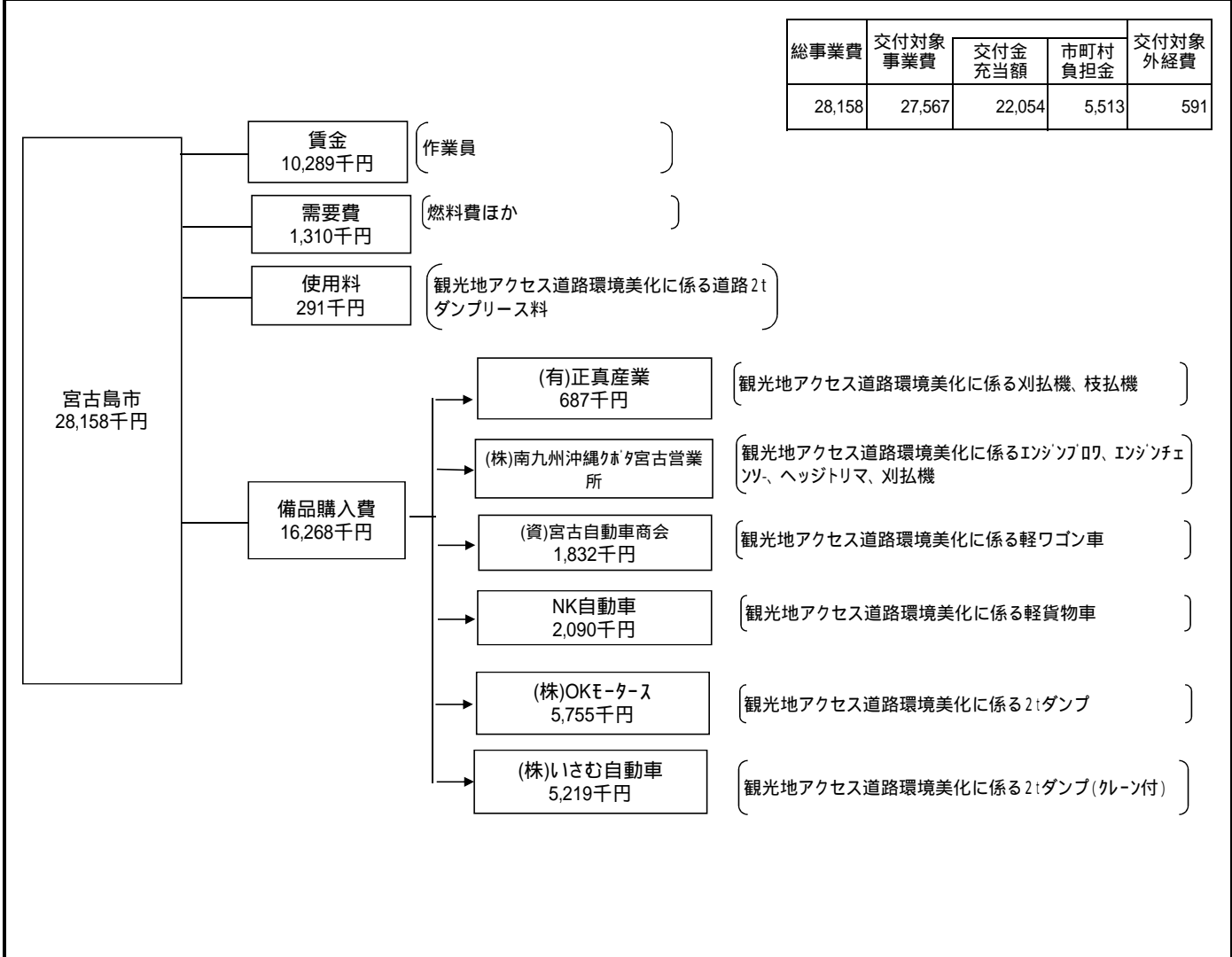
市町村名		宮古島市					
平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	観光地アクセス道路環境美化強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	建設部道路建設課		事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 -1-(1)
事業内容	美しい島づくりを推進するため、観光地へのアクセス道路の環境美化を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	24年度（繰越）	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	37,179				
		(b)予算現額	34,528				
		(c)増減額(b-a)	2,651				
		(d)繰越額	-	17,528			
		A.計(b+d)	34,528	17,528			
	B.執行済額		17,184	10,974			
	うち交付金充当額		13,274	8,779			
	次年度繰越額		17,528				
	執行率（%）(B/A)		49.8%	62.6%			
予算の状況の説明		運搬用ダンプ3台を発注したが、震災の影響で製造ラインの規模縮小により年度内納品が困難となり、予算の一部を繰り越した上で10,974千円を執行した。車両購入に係る入札残により予算残額が発生したが、予定していた事業は全て実施しており適正に執行することができた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	観光アクセス道路の環境美化(宮古地区)	目標	(20路線)	()	()	()	
		実績	20路線				
	観光アクセス道路の環境美化(伊良部地区)	目標	(13路線)	()	()	()	
		実績	13路線				
達成状況説明	観光地アクセス道路33路線の清掃を定期的実施することにより、環境美化を図った。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	観光アクセス道路の環境美化(宮古地区)	目標	()	(20路線)	()	()	()
		実績		20路線			
	観光アクセス道路の環境美化(伊良部地区)	目標	()	(13路線)	()	()	()
		実績		13路線			
	進捗状況説明	当初計画していた刈払機等による雑草除去の環境美化については、達成することができた。今後は対象路線の追加等の検討を行いながら、観光地アクセス道路の環境美化を実施していく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・震災の影響でダンプの納品に影響がでたが、活動及び成果目標ともに達成しており、特に課題等はない。	・震災の影響で予算の繰越はあったが、活動目標及び成果目標ともに目標達成しており、特に改善を要しない。

今後の取り組み方針

観光地へのアクセス道路の環境美化を図る目標は達成されており、今後も引き続き業務を実施し観光地アクセス道路の環境美化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目、用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・備品購入先は地方自治法及び宮古島市契約規則に則って入札等により選定しており妥当と考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・活動目標、成果目標を達成しており予算規模は適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については、完了検査及び支出等に関する書類により確認、適正であった。
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3	大嶽城址公園環境整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ
担当部課名	建設部都市計画課	事業実施（予定）年度	平成24年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				花と緑あふれる県土の形成
				-1-(1)

事業内容
本市で最も高台に位置する大嶽城址公園内に花木を植栽し、観光公園としての整備を図る。

実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他（ ）
------	------	----	----	----	--------

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況					
	(a)当初予算額	4,000	-			
	(b)予算現額	4,000	-			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	-	4,000			
	A.計(b+d)	4,000	4,000			
	B.執行済額	0	4,000			
	うち交付金充当額		3,200			
	次年度繰越額	4,000	0			
	執行率(%) (B/A)	0.0%	100.0%			
予算の状況の説明	地域からの要望等により、植栽設計の前に公園内の詳細な植生調査や土壌調査を全面的に行い、植栽整備計画の検討に調整を要したことから、年度内に設計業務発注が行えず繰越事業となった。24年度事業予算4,000千円のうち3,307千円が調査設計分で、693千円は整備実施設計分として25年度予算と合算して執行した。					

活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		観光地の形成（観光公園の整備）観光公園内の花木植栽整備に係る実施設計	目標	(実施設計)	()	()
	実績	調査・実施設計				
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	24年度事業予算3,307千円が調査設計分。地域からの要望等により、工事実施設計に着手する前に公園内の詳細な植生調査や土壌調査を行う必要があるとして、平成25年7月までに調査設計を行い、天然記念物植物群落の保全と史跡との調和に配慮した、宮古島ならではの花木を活かした植栽修景における現状・課題の整理を実施し、報告書としてまとめた。それを基に、事業費のうち693千円を25年度予算との合算により実施設計を実施した。					

成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）	基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）	
		目標	()	(実施設計)	()	()	()
		実績		調査・実施設計			
		[参考指標]	目標	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	地域からの要望等により、公園内の詳細な植生調査や土壌調査を全面的に行った上、整備実施設計を次年度予算との合算にて完了しており、目標を達成している。今後は、平成26年度から平成28年度にかけて整備工事を行う。						

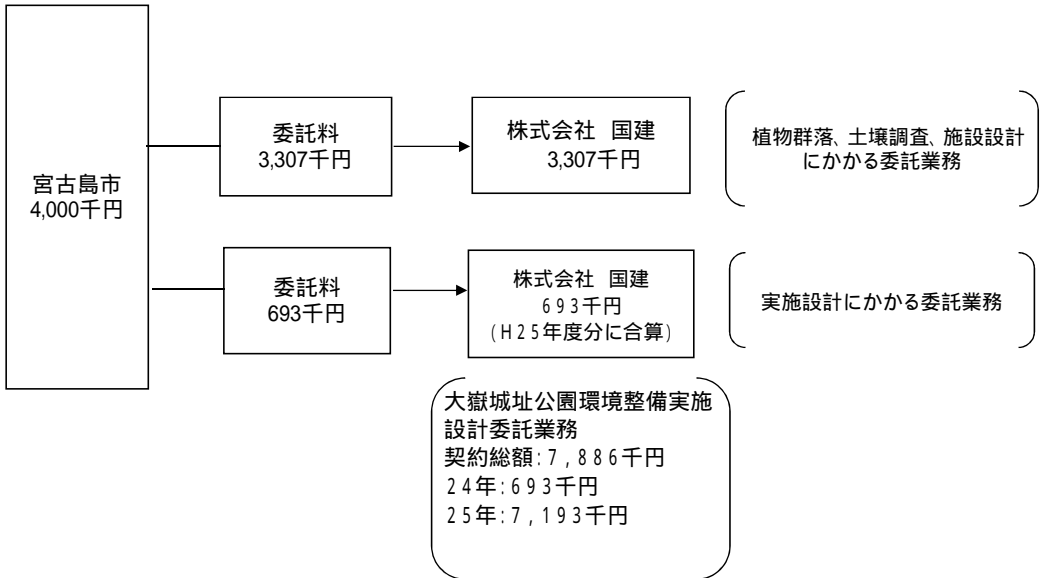
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 公園施設と景観面の課題(現況と観光地としてのあり方) 公園としての歴史、固有性に係る課題(魅力の確認・発信) 貴重な自然植生の保存に係る課題(保存形成・再整備との調和) 	<ul style="list-style-type: none"> 最大の景観阻害要因となっているアプローチ道路のコンクリート斜面と密集した樹木による暗い閉塞感を改良し「花の名所」にふさわしい修景植栽の整備とする。 老朽化した園路及びトイレや駐車場の再整備し、バリアフリー - 対応を充実させ、アプローチ道路に歩道を設ける。 埋もれがちの石畳を文化財としての存在感を際立たせ、歴史的イメージを感じさせながら史跡へと導く遊歩道の整備を行う。 天然記念物の自然樹林及び樹林内園路は、現況のまま保全し、やむをえないものは移植により保全を行う。

今後の取り組み方針

実施設計を基に、「花の名所」にふさわしい修景植栽の整備、老朽化した園路及びトイレや駐車場の再整備及びバリアフリー対応の充実とアプローチ道路への歩道設置、歴史的イメージを感じさせながら史跡へと導く遊歩道の整備、天然記念物の自然樹林及び樹林内園路の現況保全又は移植保全等に留意し、平成26年度から平成28年度にかけ整備工事を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,000	4,000	3,200	800	



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宮古島市					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 - 花と緑のあふれる島づくり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(6)-イ		
	農林水産部 みどり推進課		事業実施(予定)年度 平成24~33年度		花と緑あふれる県土の形成		
担当部課名					1 (1)		
事業内容	市民ならびに宮古島を訪れる全ての人に安らぎを与える花と緑の島づくりに向け、公園等の緑化及び美化を図る為、花苗、花木、苗木等の安定供給を図る為に、施設の強化を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	1,000	-			
		(b)予算現額	1,000	-			
		(c)増減額(b-a)	0	-			
		(d)繰越額	-	1,000			
		A.計(b+d)	1,000	1,000			
	B.執行済額		0	945			
	うち交付金充当額		0	756			
	次年度繰越額		1,000	0			
	執行率(%) (B/A)		0.0%	94.5%			
予算の状況の説明		基本計画策定に向けた調査業務の内容調整に不測の日数を要した為、予算を繰り越して実施した。計画していた事業内容はすべて完了しており、適正な事業執行が出来た。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	苗畑施設の基盤強化に関する調査を実施	目標	(調査委託業務)	()	()	()	
		実績	調査委託業務				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	苗畑基盤強化に関する調査委託業務を実施。市内3箇所(平良・城辺・伊良部)の苗畑施設(緑化育苗関係施設)の現状を適正に把握する為、それぞれの施設において、用地調査、建物施設調査、施設利用調査、農業用設備・機械の利用状況調査を行い、さらに関連事業調査として苗木の需要を調査した。それを踏まえ、3施設の共通課題と対応方針をまとめることが出来た。現状調査をする事により、各施設の現況及び課題を正確に把握する事が出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
	苗畑施設の基盤強化に関する調査を実施	目標	()	(調査委託業務)	()	()	(苗木等供給量)
		実績		調査委託業務			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	苗畑基盤強化に関する調査委託業務を実施。3箇所の苗畑施設の各施設の現況及び課題を正確に把握する事が出来た。本調査を基に、平成26年度に苗畑基盤強化に関する基本設計(基本計画)業務を実施し、施設の有効活用に向けた計画を策定する。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	3箇所の施設は、それぞれ苗畑施設とも事務所及びハウス・倉庫・機械庫等の老朽化が著しい、散水施設(灌水)が老朽化しており散水作業に支障をきたしているという共通の課題を持っている。	3箇所の苗畑を有効に活用していくため、各施設の老朽化を解消し、効率的な散水作業に必要な散水施設(灌水)の整備を実施する必要がある。その為、まず苗畑基本計画を策定する必要がある。
今後の取り組み方針		
3箇所の施設を有効に活用していく為、平成26年度に苗畑基盤強化に関する基本設計(基本計画)業務を行う。平成27年度以降は基本設計(基本計画)に基づき、順次施設整備を行っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	945	945	756	189	0
<pre> graph LR A[宮古島市 945千円] --> B[委託料 945千円] B --> C["(株)大協企画コンサルタント 945千円"] subgraph D [] C end style D stroke-dasharray: 5 5 </pre>					

資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は市の指名選定委員会において選定した7社による指名競争入札で落札した事業者であり、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予定した事業は完了しており、予算規模は適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宮古島市					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 - 伊良部地区景観向上事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(6)-ア		
	伊良部支所 地域づくり課		事業実施(予定)年度		24年度		
担当部課名	伊良部支所 地域づくり課		事業実施(予定)年度		24年度		
事業内容	伊良部地区の玄関口である佐良浜港に隣接する宮古島市振興総合センターは、築34年経過し、老朽化が著しく危険であり、観光地としての景観を損ねているため、施設の撤去等周辺整備を行い、周辺住民の安心・安全を確保するとともに、観光振興に資する跡地利用を進め、沖縄らしい美しい景観を形成し、観光リゾート地としてのまちづくりを推進する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	74,570				
		(b)予算現額	74,570				
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	28,070			
		A.計(b+d)	74,570	28,070			
	B.執行済額		46,499	24,868			
	うち交付金充当額		37,199	19,894			
	次年度繰越額		28,070				
	執行率(%) (B/A)		62.4%	88.6%			
予算の状況の説明		振興総合センターの跡地利用に係る地域からの意見集約に不測の日数を要した事から繰越事業となった。H24年度中に解体工事を実施し、繰越予算でトイレ、東屋公園の整備を行い景観向上につとめた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	1)景観を損ねている危険性の高い施設の除去:振興総合センター(1,710㎡)	目標	(施設除去)	()	()	()	
		実績	施設除去				
	2)観光振興に資する跡地利用の推進(観光公園の整備)	目標	(観光公園整備)	()	()	()	
		実績	観光公園整備				
達成状況説明	振興総合センターを解体撤去し跡地にバリアフリー対応のトイレ・東屋を整備したことにより、景観を向上すると共に観光客の利便性向上を図ることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	1)景観を損ねている危険性の高い施設の除去:振興総合センター(1,710㎡)	目標	()	(施設除去)	()	()	()
		実績		施設除去			
	2)観光振興に資する跡地利用の推進(観光公園の整備)	目標	()	(観光公園整備)	()	()	()
		実績		観光公園整備			
	進捗状況説明	伊良部地区の玄関口である佐良浜港に隣接する宮古島市振興総合センターは、築34年経過し老朽化が著しく危険であり、観光地としての景観を損ねていたため、当施設を解体撤去し、跡地において観光公園整備を実施した。これにより景観を向上すると共に観光客の利便性向上を図ることができており、今後は整備した施設を適正に管理し、観光客等の利用者に喜ばれる施設として維持していく。					

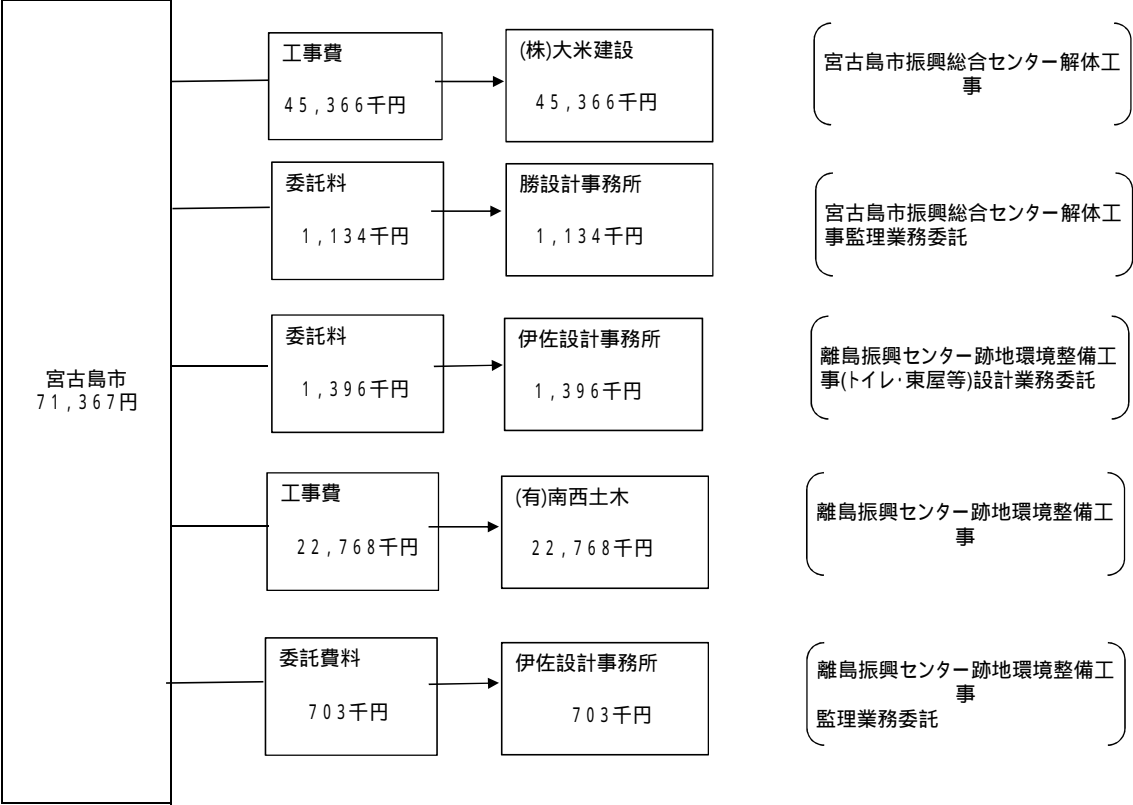
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 今後も伊良部島・下地島を魅力的な観光地として推進していく為、更に観光客受入体制の強化を図る必要がある。 今後は整備した施設を適正に監理し、利用者に喜ばれる施設として維持する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、受入体制を強化していく為に、どのような取り組みが必要であるかの検証を進め、順次事業を実施していく。 整備した施設を清潔に維持管理する。

今後の取り組み方針

平成27年1月に伊良部大橋が開通する予定であり、伊良部島・下地島への交通アクセスが向上する為、観光客数が大幅に増加すると思われる。魅力ある観光地としていくため、今後も実施していくべき事業の検証を進め、更に整備した観光施設の維持管理を徹底して観光客によるこぼれる施策をおこない観光産業の振興拡大を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
71,367	71,367	57,093	14,274	



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定は、宮古島市建設工事等入札事務処理要綱により、指名競争入札を径て選定しており妥当である。予算規模は、積算基準を適用しており適正である。費目は、委託料、工事費のみであり必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5 - エコアイランド宮古島周遊エコツアー整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-(ア)
担当部課名	企画政策部エコアイランド推進課	事業実施（予定）年度 平成24年度～28年度	低炭素島しょ社会の実現
		沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容
本市のエコ関連施設において、観光客や市民等が設備を見学できるPR館の整備や島内の観光関連施設に電気自動車の充電設備を整備することにより、電気自動車の普及促進と観光振興を図る。

実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他（ ）
------	------	----	----	----	--------

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	(a)当初予算額	29,400			
		(b)予算現額	25,400			
		(c)増減額(b-a)	4,000	0		
		(d)繰越額	-	21,400		
		A.計(b+d)	25,400	21,400		
	B.執行済額		3,634	7,209		
	うち交付金充当額		2,907	5,767		
	次年度繰越額		21,400	0		
	執行率(%) (B/A)		14.3%	33.7%		

予算の状況の説明
・啓発施設を建設予定のエコ関連施設の管理者との調整において、施設の形態や監理・運営方法等について合意がまとまらず不測の日数を要し繰越事業とした。また、施設の機能を分離したことにより設計費が下がったことで不用額が発生した。
・充電設備に関しては年度内に竣工。当初計画においては3基購入し3箇所に設置する計画になっておりましたが、3基とも寄贈を受けたので予算残が発生した。

活動目標(指標)及び達成状況	が	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
メガソーラ 展望施設の整備	目標	(実施設計)	()	()	()
	実績	実施設計			
観光施設等への充電器の整備	目標	(3箇所)	()	()	()
	実績	3箇所			

達成状況説明
・メガソーラ 展望施設とエコ施設を紹介するPR施設の実施設計を作成した。
・電気自動車の普及促進のため、充電設備を本市が所有する観光施設3箇所に設置した。

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
			メガソーラ 展望施設の整備	目標	()	(実施設計)	()
			実績	実施設計			
観光施設等への充電設備の整備	目標	()	(3箇所)	()	()	()	
	実績		3箇所				

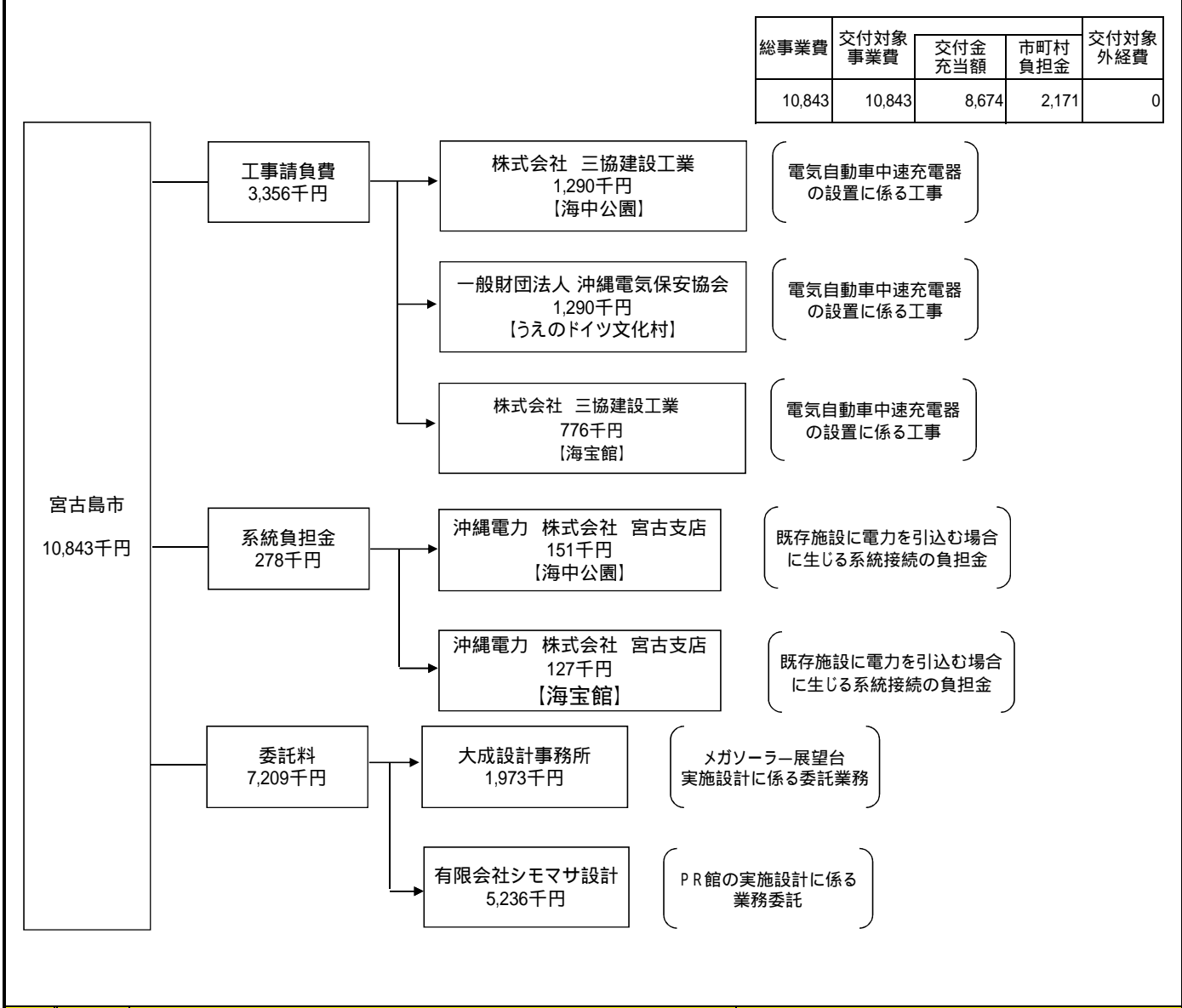
進捗状況説明
当初、メガソーラ実証研究施設内にメガソーラの展望機能と島内エコ施設の紹介機能を兼ねた施設整備を予定しておりましたが、メガソーラ実証研究施設を管理している沖縄電力との指定管理及び用地の選定について調整した結果、メガソーラ 展望施設と島内エコ施設を紹介するPR館に分離し設計した。平成25年度の事業では両施設建築を行う。
また、電気自動車充電設備の設置は本市の観光関連施設敷地内、宮古島海中公園、うへのドイツ文化村、宮古島海宝館に設置した。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・メガソーラ 展望施設1階部分のスペースを駐車場として活用できないか、メガソーラ 実証研究設備を所有している沖縄電力との調整が必要となる。 ・PR館の建設予定地付近に用水路がある為、軟弱地盤である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄電力よりメガソーラ 実証研究設備の図面等の資料提供を受け、メガソーラ 展望施設1階部分のスペースを駐車場として活用できないか調整を行う。 ・PR館施設建設予定地の軟弱地盤対策のために、基礎工法を検討する。

今後の取り組み方針

・メガソーラ 展望施設1階部分について沖縄電力と調整した結果を踏まえ、H25年度事業で実施設計をもとにメガソーラ 展望施設の整備工事を実施する。
 ・軟弱地盤に対応したPR館の基礎工法を検討した上で、H25年度事業で実施設計をもとにメガソーラ 展望施設の整備工事を実施する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	請負事業者は、地方自治法及び宮古島市契約規則に則り、入札により選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○予算規模については、実施した事業について適正だった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5 - 市民連携型太陽光発電整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-(ア)
担当部署名	企画政策部エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成24年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容 電気的・敷地的に再生可能エネルギーの導入制約のある離島において、市民と連携して一般住宅等の屋根の導入ポテンシャルを活用した太陽光発電の導入モデルを構築するとともに、県の「沖縄スマートエネルギーアイランド基盤構築事業」と連携して、来間島における再生可能エネルギー100%自活の地域づくりを目指す。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	218,150				
	(b)予算現額	207,525				
	(c)増減額(b-a)	10,625	0			
	(d)繰越額	-	105,278			
	A.計(b+d)	207,525	105,278			
	B.執行済額	82,425	105,031			
	うち交付金充当額	65,940	84,024			
	次年度繰越額	105,278	0			
	執行率(%) (B/A)	39.7%	99.8%			
予算の状況の説明	繰越の理由としては、屋根借りのための地元住民との交渉に不測の日数を要したため。					

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
	来間島内に太陽光発電設備を設置	目標	(設備の設置)	()	()	()
		実績	設備の設置			
	目標	()	()	()	()	
		実績				
達成状況説明	平成24年度においては、太陽光発電設備設置に係る調査設計及び設置工事を実施した。太陽光発電設備の設置により、来間島における再生可能エネルギー100%自活の実証を開始できた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
			目標	(設備設置)	()	()
	実績	設備設置				
	[参考指標]	目標	()	()	()	()
進捗状況説明	太陽光発電設備の設置を完了した。また、県事業においては、来間島における島内エネルギー自活に向けて、設置した設備の発電量を計測するシステムの作製を行った。平成25年度より実証事業の検証を開始し、今後離島における再生可能エネルギーの利用モデル構築に向けた検証を継続する。					

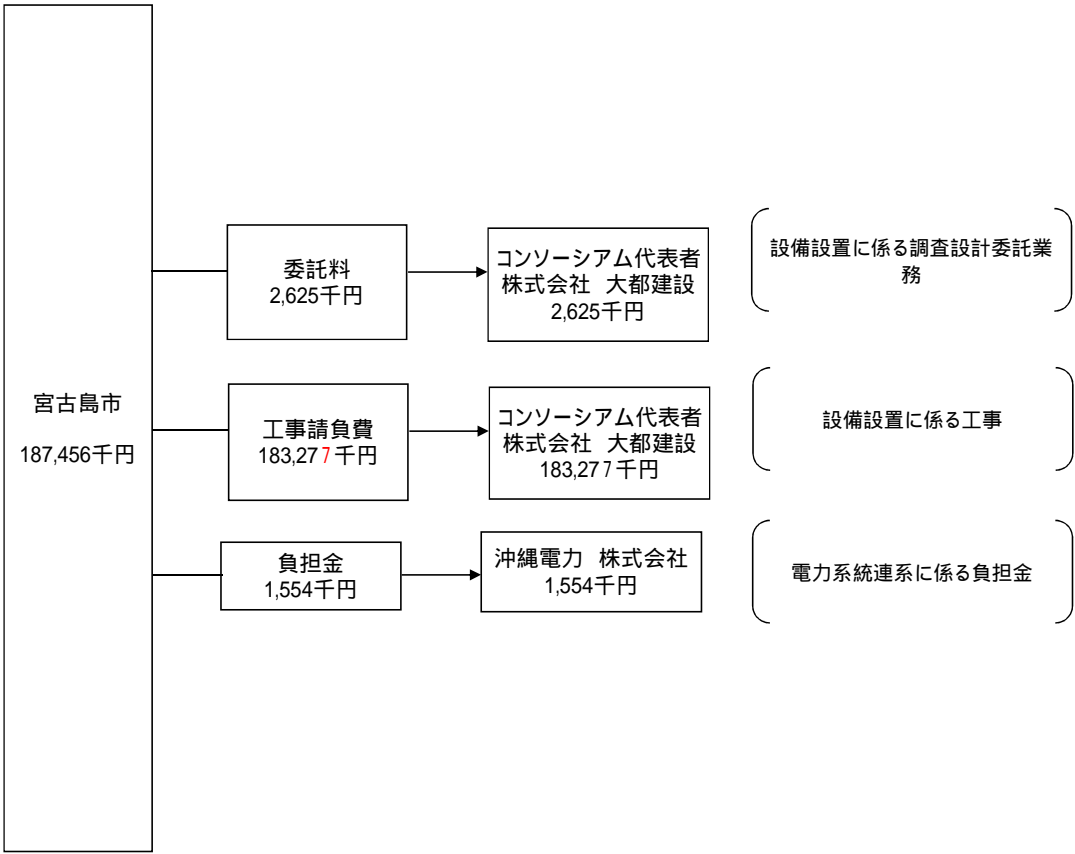
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	地元住民の理解を得るため、何度も説明を要した。	取り組み意義を時間をかけて丁寧に説明する必要がある。
	来間島における100%自活の検証にあたっては、島全体の需要と供給のバランスを把握し、蓄電池を制御する必要がある。	

今後の取り組み方針

県事業における100%自活の検証にあたっては、地元住民に対し、丁寧に説明しながら、平成24年度に作製した計測・制御に係るシステムを設置するとともに、蓄電池を作製し、現地に据付、システム全体を稼働する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
187,456	187,456	149,964	37,492	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	事業者の選定、及び予算規模は、公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、提案内容、コスト等を助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・使途については、太陽光発電設備の整備に必要な調査設計・工事・系統工事負担金のみとなっており、必要なものに限定されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5 - 運輸部門における低炭素推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-(ア)
担当部課名	企画政策部エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成24年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	低炭素島しょ社会の実現
			-1-(1)

事業内容
宮古島市は、環境モデル都市として二酸化炭素の削減に向けた取り組みを推進しており、エコカーを率先して導入し、各種イベント等で活用することにより、二酸化炭素の削減を図り、低炭素社会の実現を目指す。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	21,000	0			
	(b)予算現額	21,000	0			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	-	6,300			
	A.計(b+d)	21,000	6,300			
	B.執行済額	14,597	6,272			
	うち交付金充当額	11,677	5,017			
	次年度繰越額	6,300	0			
	執行率(%) (B/A)	69.5%	99.6%			
予算の状況の説明	環境対応車購入において、車両に係る税金、保険料、リサイクル料等については一括交付金対象外経費としたため、一部執行額と交付金充当額との相違がある。また、購入車両の1台について、昨今の環境指向の増大から人気車種となり、24年度中の納品が難しくなったことから、その分の予算を繰り越して導入した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		エコカー(ハイブリッド車)の導入	目標	(導入)	()	()
	実績	導入				
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	本事業によってハイブリッドカーを導入し、公用車として日常業務及びイベント等で使用することにより、当市の低炭素社会構築に寄与した。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		エコカー(ハイブリッド車)の導入:5台	目標	(5台)	()	()
		実績	5台			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()
		実績				
進捗状況説明	本事業によってハイブリッドカーを5台導入し、日常は公用車として各部署で使用し、全日本トリアスロン宮古島大会やツール・ド・宮古島、エコマラソン大会等のイベントで使用することで、CO2の削減や、エコカーの市民への普及啓発効果を高める。					

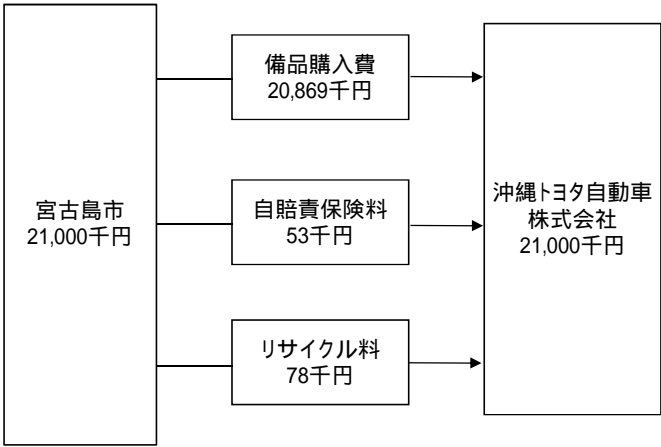
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今後も環境モデル都市として二酸化炭素の削減に向け、市民へ普及啓発を図る必要がある。	導入した車両について、エコカーであることを示す表示を行うほか、各種イベント等へ積極活用するなど、市民への普及啓発の場を多く用意する。

今後の取り組み方針

エコカーについて、導入後は宮古島市役所内の各部署へ配置し、通常時の公用車として使用するとともに、各種スポーツイベント等の開催、また外部からの視察者対応時等で率先して使用し、市民、視察者等へ環境モデル都市としての取り組みをアピールしてゆき、低炭素社会の実現を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
21,000	20,869	16,694	4,175	131



エコカー導入に係る備品購入費
20,869千円

自賠責保険料及びリサイクル料
(交付対象外経費)
131千円

資金の 用途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	環境対応車の導入において、導入先及び車種、台数は当市による運用形態を考慮し選定し、予算規模もそれに沿って算出したため、適正であると考えている。 (車種選定において、スポーツイベントでの選手収容車等で活用できるよう7~8人乗りのハイブリッドカーとし、また、離島である当市での修理サービス及び部品調達等の迅速な提供を受けるため、当市内に代理店のあるメーカーのものを選定したところ、沖縄トヨタ社となった。)
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5 -	バイオエタノール高効率製造・流通事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-(イ)
担当部課名	企画政策部エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成24年度～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				クリーンエネルギーの推進
				-1-(1)

事業内容
 本市の基幹作物であるサトウキビのカスケード利用を通じた循環型社会の構築及び沖縄産バイオエタノールの事業化を目指して以下の事業を実施する。
 バイオエタノールの高効率製造事業
 バイオ燃料の流通安定化検証
 付加価値の高いバイオエタノールの用途開発等

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	44,377	-			
	(b)予算現額	44,377	-			
	(c)増減額(b-a)	0	-			
	(d)繰越額	-	17,500			
	A.計(b+d)	44,377	17,500			
	B.執行済額	16,656	16,662			
	うち交付金充当額	13,325	13,330			
	次年度繰越額	17,500	0			
	執行率(%) (B/A)	37.5%	95.2%			
予算の状況の説明	・流通事業に係る関係機関との協議が遅れたため、1,750万円を次年度に繰越した。 ・不要額が838千円発生しているが、修繕費等が減った事による契約額の減である。					

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
	バイオエタノール製造施設の運転管理に係る基礎的なデータの収集 バイオ燃料の流通安定化検証	目標	(製造・流通の検証)	()	()	()
		実績	製造・流通の検証			
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	H24～H28の5年間の初年度にあたり、主に製造工程における蒸留方法で、次年度以降の高効率化に向けた基礎的なデータが得られた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
		バイオエタノールの製造	目標	()	バイオエタノール製造	()	()
	実績			6,355リットル製造			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	
進捗状況説明	平成24～26年度におけるバイオエタノール製造の安定的かつ効率的な製造基礎技術の確立を目標とした初年度として、6,355リットルの製造と副産物の成分分析を行い、次年度以降の製造方法の検証に必要な基礎データが得られた。						

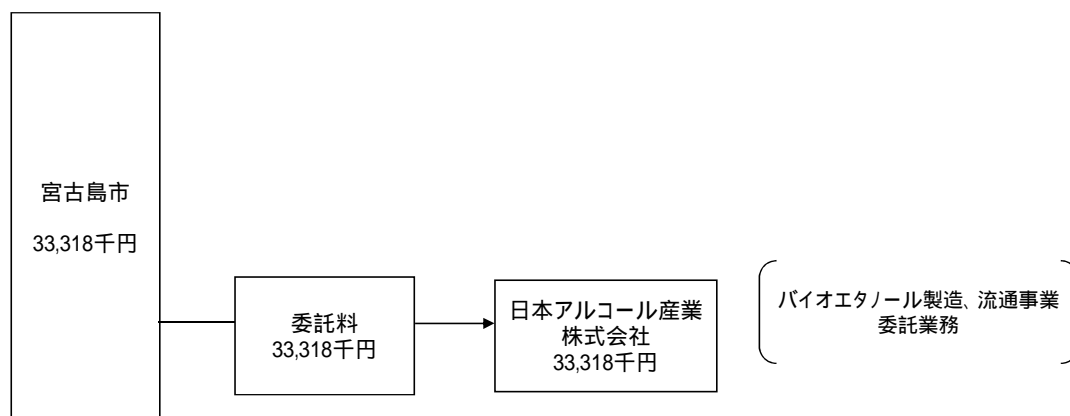
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	製造コストが高いため、一般流通のガソリンに比べ割高となっている。 混合元となるガソリン及び販売に係る流通経路が無い。	製造に関しては、製造コスト圧縮のため、引き続き次年度以降も高効率化の検証が必要である。 流通経路の確保に向け、燃料流通業者等との調整が必要である。

今後の取り組み方針

製造コスト圧縮だけでなく、バイオエタノールの燃料以外の活用、残渣有機成分の有効利用など様々な方向からの事業の採算性の検証を進め、流通経路の確保し、事業化の検証に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
33,318	33,318	26,655	6,663	0



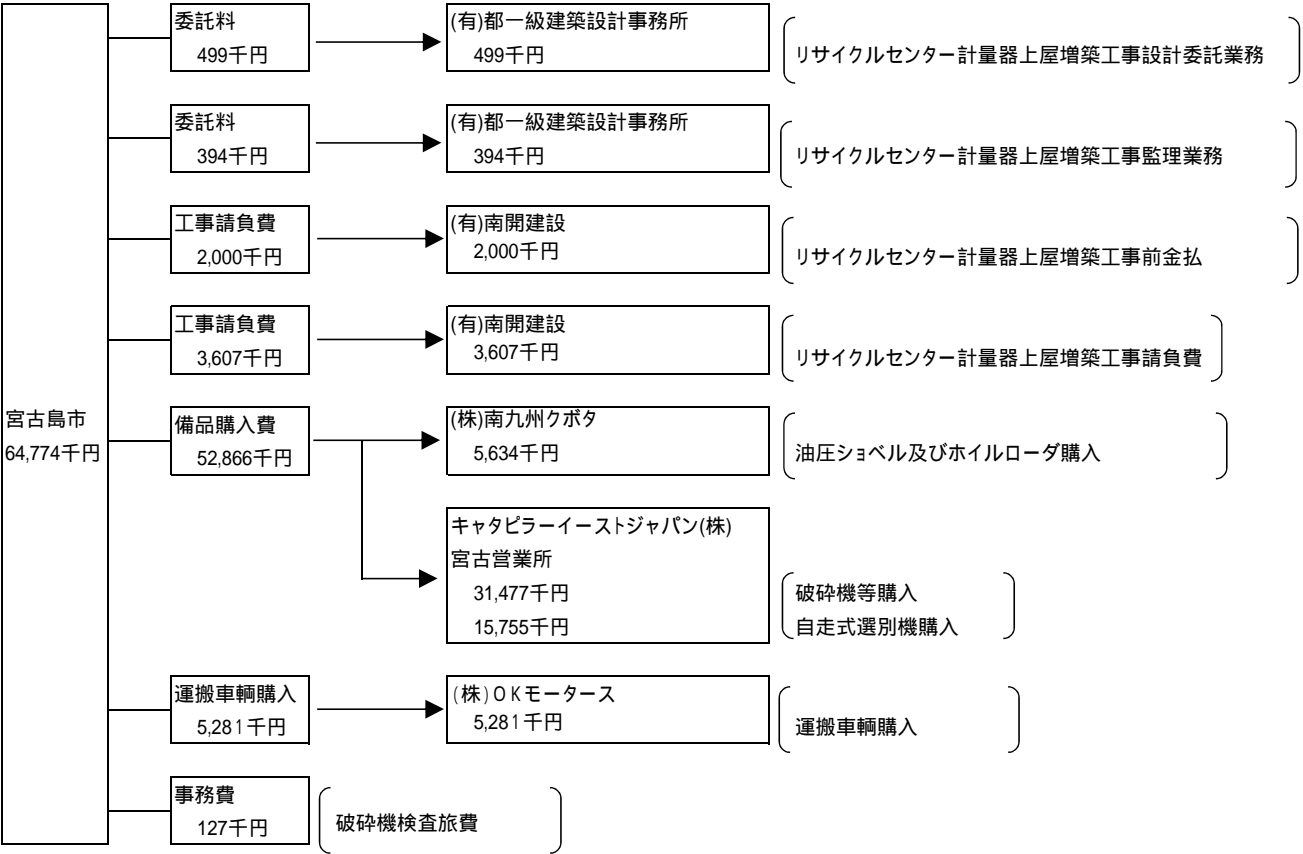
資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は製造施設の指定管理者であり、企業組織、実績、知識等からも同社へ委託することが妥当であったと考える。 予算内容としては、製造に係る経費がほとんどで有り、適正な規模と考える。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宮古島市						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6 -	資源循環型農業推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(4)-ウ	
担当部課名	農林水産部 むらづくり課	事業実施(予定)年度	平成24~26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 -1-(6)	
事業内容	本市の資源リサイクルセンターでは、庭木や街路樹等の剪定後に出る枝葉等を利用して有機質肥料を製造しており、農地へ還元することにより、化学肥料の低減や地下水の保全につなげている。年々剪定枝等、原料の搬入が増加しているが、現在の機械設備では処理能力が十分ではないため、処理能力のより高い機械設備を導入するとともに、雨天時対策として、雨よけ屋根を整備し、施設の機能強化を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	67,058				
		(b)予算現額	66,904				
		(c)増減額(b-a)	154	0			
		(d)繰越額	-	11,412			
		A.計(b+d)	66,904	11,412			
	B.執行済額	55,492	9,282				
	うち交付金充当額	44,393	7,417				
	次年度繰越額	11,412					
	執行率(%) (B/A)	82.9%	81.3%				
予算の状況の説明	工事については、工事に係る溶融亜鉛メッキ業者が県内に1社しかなく、問い合わせたところ3月まで予定が入っており、資材の入手が4月になることから、年度内工期が困難となった。運搬車両購入については、東北大地震の影響で各メーカーの製造ライン(受注)が、東北地方に集中しており、他の地域からの受注については、納車までに最低6か月以上を要し、年度内での納車が困難であるとのことであった。そのため、予算を繰り越して事業を執行した。不用は入札残によるもの。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	破砕機等の導入件数:4台 油圧ショベル ホイルローダ 破砕機 自走式選別機	目標	(4台)	()	()	()	
		実績	4台				
	施設整備:計量器上屋増築	目標	(上屋増築)	()	()	()	
		実績	上屋増築				
達成状況説明	作業の効率化を図るため、油圧ショベル、ホイルローダ、破砕機、自走式選別機を導入した。導入した結果、堆肥の年間製造量増加を図ることが出来た。化学肥料の低減や地下水保全につなげるための施設の機能強化及び雨天時の対策として、軽量ヤードの整備を行った						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	破砕機等の導入件数:4台 油圧ショベル ホイルローダ 破砕機 自走式選別機	目標	()	(4台)	()	()	()
		実績		4台			
	施設整備:計量器上屋増築	目標	()	(上屋増築)	()	()	()
		実績		上屋増築			
	進捗状況説明	油圧ショベル ホイルローダ 破砕機 自走式選別機の導入により、作業の効率化が図られるため、有機質肥料の生産量が前年度比、約20%増見込まれる。計量ヤード整備により、雨天時の搬入事務が効率的に行われる。また、計量時の粉じん飛散防止にもつながる。利用者が雨天時も搬入できる回数が増加し、事業効果にも大きく寄与できる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	宮古島市資源リサイクルセンターでは、堆肥化原料の搬入量が平成22年度9,600トン、23年度10,800トンと年々増加傾向で推移しており、迅速にリサイクルセンターで搬入・肥料化され、同時に化学肥料の使用が軽減されている。しかし、宮古島市内で発生している堆肥化原料総量に対し、既存の発酵槽では処理能力が十分ではないのが現状である。	宮古島市内で発生する堆肥化原料総量に対し、既存の発酵槽では処理能力が十分ではないため、処理能力を上げるため発酵プラントを増設し、施設の機能強化を図る。
今後の取り組み方針		
既存の発酵槽に加え、処理能力を上げるため発酵槽を増設することにより、身近な堆肥化原料を迅速に、しかも大量に処理することが可能になる。生活用水の全てを地下水に頼っている宮古島市においては、化学肥料を減少させていく必要があり、リサイクルセンターにおいて製造される有機肥料の普及拡大を図っていく。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
64,774	64,763	51,810	12,953	11



資金の流 れ、費 目、 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	工事請負事業者は指名競争入札方式により選定しており妥当であったと考える。予定していた事業は全て実施済みであり予算規模は適切であった。費目・用途については事業の目的達成の観点から必要かつ適正なものであった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-	農産物加工施設導入事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(4)-ウ
担当部課名	観光商工局 商工物産交流課	事業実施(予定)年度	平成24年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				圏域の特色を生かした産業の振興
				-1-(6)

事業内容	本市で生産される農産物の規格外商品を島内で加工し、全国へ販売する事で、販路拡大を図ると共に、「宮古島産農産物」を広くPRする。				
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	65,189	-		
		(b)予算現額	65,189	-		
		(c)増減額(b-a)	0	-		
		(d)繰越額	-	64,171		
		A.計(b+d)	65,189	64,171		
		B.執行済額	1,018	63,754		
		うち交付金充当額	814	51,004		
		次年度繰越額	64,171			
		執行率(%) (B/A)	1.6%	99.4%		
		予算の状況の説明	設備の導入を予定していた既存施設の用途変更手続き(第1次加工施設)に不測の日数を要したため、繰越事業となった。また、不用額に関しては、指名競争入札による入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施。活動目標、成果目標を鑑みて適正であった。			

H24活動目標(指標)		達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
活動目標(指標)及び達成状況	1)農産物加工設備の導入	目標	(農産物加工設備の導入)	()	()	()
		実績	農産物加工設備の導入			
	2)加工施設の整備:368㎡	目標	(加工施設の整備:368㎡)	()	()	()
		実績	加工施設の整備:368㎡			
達成状況説明	本市で生産される農産物の加工施設として施設の整備、備品(原料冷凍庫1台、製品冷凍庫1台、軽量保管庫1台、金属検出器1台、X線検出器1台)の導入を実施した。これにより、本市で生産される規格外農産物を加工する体制を充実させることができた。					

H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
成果目標(指標)及び進捗状況	1)農産物加工設備の導入	目標	()	(農産物加工設備の導入)	()	()
		実績		農産物加工設備の導入		
	2)加工施設の整備:368㎡	目標	()	(加工施設の整備:368㎡)	()	()
		実績		加工施設の整備:368㎡		
進捗状況説明	施設の整備及び備品の導入により、幅広い農産物の加工の実施、多くの生産農家の利用が期待出来る他、加工施設での新たな雇用の創出が見込める。					

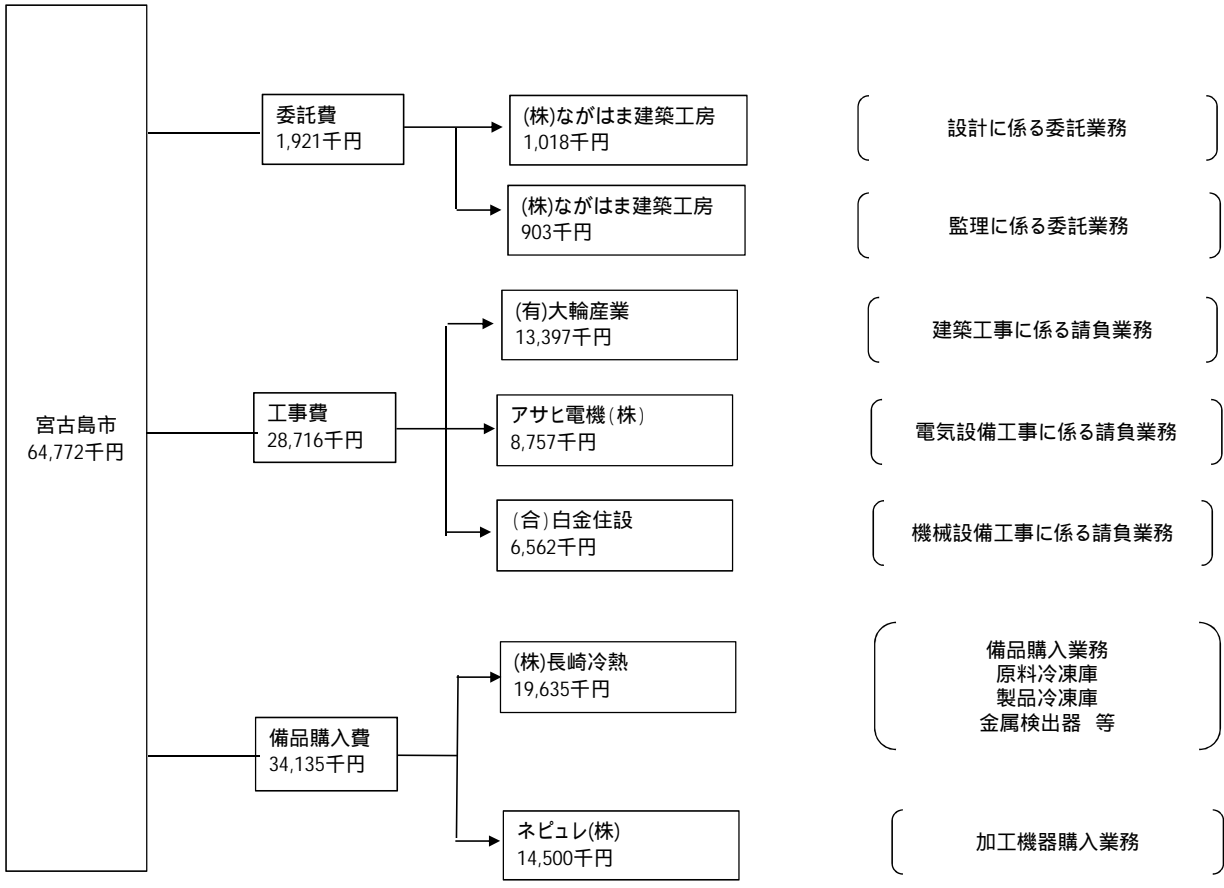
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	本事業を推進していく中で特に問題点はないが、今後は、各農家への周知方法を検討する必要がある。	本市で生産される農産物を幅広く集める観点から、各新聞紙面や本市の広報誌を活用する等の検討を行い、農家の所得向上、安定生産の拡大に繋げる。

今後の取り組み方針

平成26年4月1日より指定管理者制度を導入しており、管理者と連携を図り、より多くの農家への利用を促し施設の利用向上に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
64,772	64,772	51,818	12,954	



資金の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は指名競争入札を実施し、受託者を選定しており、妥当であったと考える。 活動目標・成果目標を達成しており、予算規模は適正であった。 費用・使途については、完了検査にて確認、適正であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7	雇用促進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア
担当部課名	観光商工局 商工物産交流課	事業実施(予定)年度	平成24年度	雇用機会の創出・拡大と求職者支援
			沖縄振興基本方針該当箇所	-2

事業内容
本市の雇用促進に向けて、平成23年度に「地域雇用創造実現事業」にて開発された「島シャツ」の商品化に向けた取り組みを実施し、地域雇用の拡大を目指す。

実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()
------	------	----	----	----	---------

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	19,796				
	(b)予算現額	19,796				
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	-	1,979			
	A.計(b+d)	19,796	1,979			
	B.執行済額	17,813	1,856			
	うち交付金充当額	14,250	1,485			
	次年度繰越額	1,979	0			
	執行率(%) (B/A)	90.0%	93.8%			
予算の状況の説明	紡糸技術を共同研究開発予定であった紡績会社が民事再生法の適用を受け契約困難となり、新たな紡績会社との交渉を余儀なくされ、その調整に不測の日数を要したことから繰越事業となった。また、不用額に関しては、本事業は概算契約により実施しており、実績報告を受け完了検査による確定額となっている。当初計画した事業内容は実施しており、達成状況を鑑みても適正であったと考える。					

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
		24年度	25年度	26年度	27年度	
	苧麻を活用した島シャツの研究開発	目標	(島シャツの研究開発)	()	()	()
		実績	紡糸技術の確立・販路拡大			
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	島シャツの商品化に向け、紡糸技術の確立・販路の確保ができた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
		苧麻を活用した島シャツの研究開発	目標	()	島シャツの研究開発	()	()
	実績			紡糸技術の確立・販路拡大			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	宮古島産苧麻糸(100%、混紡等)について紡糸技術の開発研究・シルバー・障害者等を含めた紡糸技術の開発研究・商品の開発・販路調査を実施した。						

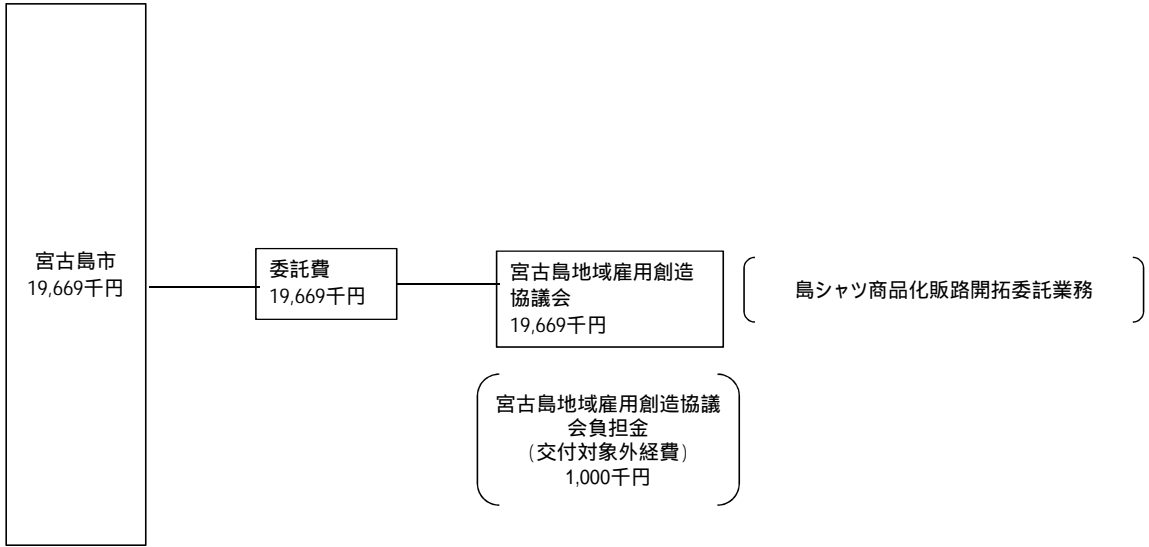
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	シルバー人材センター及び障がい者を雇用した紡糸技術の開発を調査したが、経験者がいない及び健常者でも熟練を要する難しい行程の為、作業には向いていないとの課題が把握できた。 芋麻生産栽培及び芋麻引き者が限られているという課題が把握できた。	生産過程における散水作業及び収穫作業はシルバー人材センター及び障がい者の方々にもできる様な工程作りを検討する。 また、宮古上布の販売数減少による糸の需要が減少し、芋麻の栽培者が減少している為、芋麻の繊維や茎、葉を資材や肥料、食材等に加工する等、様々な活用方法を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

本受託者(地域雇用創造協議会)を介して、地域の希望する団体等に今回の事業で得たノウハウを提供し島シャツブランドの広域な流通を目指す。更なる販路開拓においては、地域大手衣料品店等を通じた販売、企業向け等で販路を拡大する。また、芋麻の活用方法を検討し、生産者拡大を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
19,669	19,669	15,735	3,934	



資金の流れ、費目、使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	雇用創造協議会にて、平成23年度に「地域雇用創造実現事業」にて開発された「島シャツ」の商品化に向けた取り組みの為、ノウハウを熟知している事から、委託先は妥当であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	活動目標・成果目標を達成しており、予算規模は適正であった。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	雇用促進に向けた公共性の高い事業であり受益者との負担関係は妥当であると考えられる。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用・使途については、完了検査にて確認、適正であった。